

Q 各空港関連団体の数とその活動や開催状況はどうか。また、市長は幾つの団体の構成メンバーなのか。

A 市長 空港に関連した団体や協議会等の数は12組織あるということです。

活動状況については、不定期に必要なに応じて開催するものもございまして、定期的に年1回、多いところでは、年6回開催するものもあると聞いています。

市長としてメンバーになっているものは7組織です。

Q 市長が市の代表として各会議等に出席する前に、関係者等との意見調整は図られているのか。

A 市長 私が会議に参加をして発言するということに関しては、様々な御意見を頂きながら発言をしているつもりですが、意見調整のシステムとしては確立されていません。

今回のカーフューについで、地域の皆様方にお叱りを頂きました。市民の皆様方のお声を十分に反映させて頂いてなかったという大きな反省がございます。皆様方の声をしっかりと代表させて頂きたいと存じます。

Q 今後、趣旨や目的を一度見直すべき団体があると思うが、市長はどう思うか。

A 市長 そのとおりだと思います。

Q 各団体が緊張感を持って、活発な会議・協議を行うことにより、

共栄・共生がより図られ、また、お互いの信頼が生まれるものと思うが、市長の見解はどうか。

A 市長 行政の代表として、成田関連の会議に出させて頂いたときに心がけなければならぬこととして、1つ、しっかりと山武市の立場、住民の立場を主張できるように、意見をしっかりとまとめたいと思えます。もう1つは、やはり、

共生です。空港の果たすこの地域への経済的な役割も大変大きなものですし、真の意味で、この空港と共存・共栄できるよう、市として地域として、協力できるところは協力していくという、この2つのポイントを持って臨みたいと思います。

個人質問



本山 英子 議員

● 水害について

Q 台風やゲリラ豪雨等の集中豪雨時ににおける今後の対策と今後の整備計画はどうか。

A 市長 今回被害が出ている所は、速やかに県当局にお願いをし、成東堰の改修、日向地区における河川の改修についても、市として努力をしていきたいと思えます。

Q 今回の台風による通行止め箇所数は

どれくらいか。

A 都市建設部長 市道関係は29か所、県道は、市で把握している箇所では4か所です。

Q 道路陥没等、道路関連の被害において、現状の復旧状況はどうか。

A 都市建設部長 被害件数は全体で107件で、復旧を終了しているものが80件、県の被害状況は、現在確認しています。

Q 木戸川の周辺については、どのように県に要望するのか。

A 都市建設部長 豊岡地区の現地の状況ですが、土手が低い、部分的に土手自体が軟弱である箇所もあります。また河川の中に土砂が堆積し、川幅等が狭くなっているというのが現状です。

そこで、本年10月10日、地元区、県山武土木事務所、市の3者で、現地で氾濫の状況等を説明して、そのときに改修事項等も、県山武土木事務所へ要望したところです。市としても、今後、引き続き早期

改修に向けて要望していきたいと思っております。

Q 水害の際の防災対策について、救出活動や避難をする際の準備は万全か。

A 総務部長 市では、救命用のボートを4艇配備しています。市役所に1艇、旧山武出張所に1艇、旧松尾出張所に2艇です。

Q 河川の氾濫による道路の冠水により、避難所として適切でない場所、特に日向小学校と豊岡小学校だが、ここについての今後の対策はどうか。

A 総務部長 当初、想定をした避難所に行けな場所があったことが確認されました。日向小学校については、山武南中とさんぶの森中央会館を急遽開設して対応しました。豊岡小学校周辺地域は、今回の木戸川の氾濫により、県道が2か所冠水

しました。避難所の豊岡小学校へ向かえない地区は、古和、山室、引越、谷津等の地区が考えられます。これからは一次避難施設以外にも、二次的な施設を検討していく必要があると考えます。

Q 私道の道路冠水について、特に生活に支障を来す場所の現状把握と今後の市の対応についてはどうか。

A 都市建設部長 私道の排水整備については、資材支給で対応しているのが現状です。



台風 26 号の影響で河川が氾濫し冠水した道路 (津辺地先県道)